

各漁場におけるマグロ、カジキ類の雌雄別出現率は、図3に示したが、本漁業の主要魚であるキハダの場合は、雄62.94%雌37.05%で、どの漁場でも雄が圧倒的に多く大体2:1の割合で出現している。メバチも各漁場共雄の出現が若干多い。クロカワカジキは、ハルマヘラ近海とセレベス海では雌の出現が圧倒的に多く2:1の割合で出現したが他の漁場は雄が多かった。シロカワカジキとバシヨウカジキの場合は、セレベス海では雌雄夫々同率でハルマヘラ近海ではバシヨウカジキが雄14に対し雌28尾、シロカワカジキは雄1尾に対し雌18尾の出現率で雌の出現が極端に多く顕著であるのに対し他の漁場は雄が多かった。

枝縄別漁獲状況

フィリピン東方近海 表2-1

魚種	1		2		3		4		5		計	
	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%		
キハダ	65	13.97	104	22.79	114	24.51	103	22.15	79	16.98	465	100%
メバチ	10	9.25	22	20.37	33	30.55	24	22.22	19	17.59	108	"
クロマグロ			1	50			1	50			2	"
クロカワカジキ	11	26.19	7	16.66	8	19.04	7	16.66	9	21.42	42	"
シロカワカジキ	2	50	1	25			1	25			4	"
バシヨウカジキ	17	30.90	11	20.00	3	5.45	10	18.18	14	25.45	55	"
メカジキ					1	50			1	50	2	"
マカジキ	2	22.22	1	11.11			4	44.44	2	22.22	9	"
サメ	24	25.26	12	12.63	19	20.00	18	18.94	22	23.15	95	"
計	131	16.99	158	20.25	178	22.82	167	21.41	146	18.71	780	"

ミクロネシア海域

表2-2

魚種	1		2		3		4		5		計	
	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%		
キハダ	164	17.13	227	23.71	230	24.03	176	18.39	160	16.71	957	100%
メバチ	19	10.38	44	24.04	53	28.96	43	23.49	24	13.11	183	"
ピンチヨウ	3	5.26	11	19.29	30	52.63	11	19.29	2	3.50	57	"
クロカワカジキ	13	34.21	7	18.42	1	2.63	7	18.42	10	26.31	38	"
メカジキ							2	100			2	"
シロカワカジキ	2	50					1	25	1	25	4	"
バシヨウカジキ	6	28.57	5	23.81	3	14.28	3	14.28	4	19.05	21	"
マカジキ									1	100	1	"
サメ	93	19.87	92	19.65	102	21.79	93	19.87	88	18.80	468	"
計	300	17.33	386	22.20	419	24.20	336	19.41	290	16.75	1731	"

ハルマヘラ近海 表2-3

魚種	1		2		3		4		5		計	
	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%
キハダ	137	14.52	233	24.70	263	27.88	203	21.52	107	11.34	943	100
メバチ	28	16.96	37	22.42	46	27.87	34	20.60	20	12.12	165	〃
クロカワカジキ	5	18.51	5	18.51	3	11.11	9	33.33	5	18.51	27	〃
シロカワカジキ	9	28.12	5	15.62	3	9.37	8	25	7	21.87	32	〃
バショウカジキ	27	32.92	11	13.41	10	12.19	14	17.07	20	24.39	82	〃
メカジキ	3	48.85			3	42.85			1	14.28	7	〃
マカジキ							3	60	2	40	5	〃
サメ	48	16.43	63	21.57	74	25.34	55	18.83	52	17.80	292	〃
計	257	16.54	354	22.79	402	25.88	326	20.99	214	13.77	1,553	〃

セレベス海 表2-4

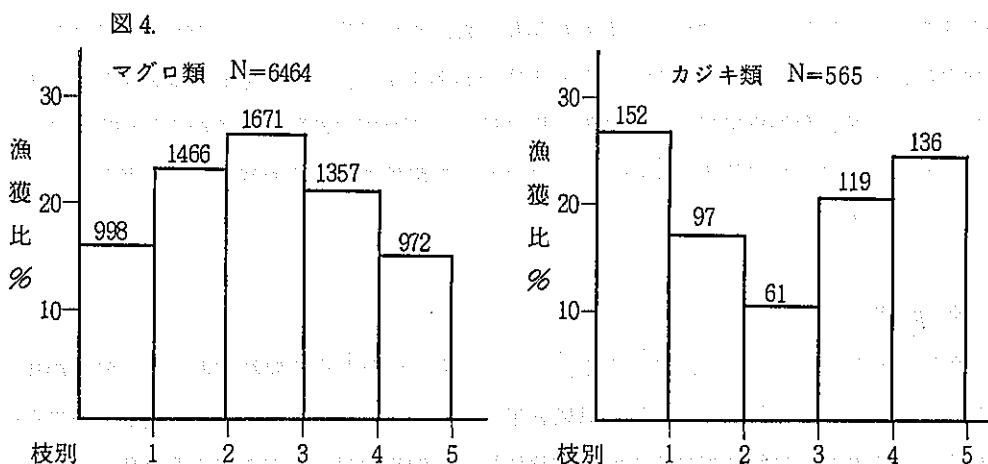
魚種	1		2		3		4		5		計	
	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%
キハダ	427	15.47	606	21.96	705	25.55	584	21.16	437	15.83	2759	100
メバチ	38	18.18	40	19.13	55	26.31	40	19.13	36	17.22	209	〃
クロカワカジキ	6	13.95	9	20.93	6	13.95	14	32.55	8	18.60	43	〃
シロカワカジキ	6	23.07	5	19.23	2	7.69	4	15.38	9	34.61	26	〃
バショウカジキ	24	26.08	18	19.56	11	11.95	18	19.56	21	22.82	92	〃
メカジキ	2	28.57	1	14.28			3	42.85	1	14.28	7	〃
サメ	52	18.30	62	21.83	59	20.77	63	22.18	48	16.90	284	〃
計	555	16.22	741	21.66	838	24.50	726	21.22	560	16.37	3420	100

バンド海 表2-5

魚種	1		2		3		4		5		計	
	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%	尾数	%
キハダ	87	18.39	117	24.73	101	21.35	101	21.35	67	14.16	473	100
メバチ	20	13.98	24	16.78	41	28.67	37	25.87	21	14.68	143	〃
クロカワカジキ	3	25.00	2	16.66	2	16.66	2	16.66	3	25.00	12	〃
シロカワカジキ	4	23.52	4	23.52	2	11.76	4	23.52	3	17.64	17	〃
バショウカジキ	9	33.33	3	11.11	1	3.70	3	11.11	11	40.74	27	〃
メカジキ	1	11.11	2	22.22	2	22.22	2	22.22	2	22.22	9	〃
マカジキ									1	100	1	〃
サメ	9	15.00	11	18.33	10	16.66	11	18.33	19	31.66	60	〃
計	133	17.92	163	21.96	159	21.43	160	21.56	127	17.11	742	100

本漁業の漁具構成は各漁船共大同小異と思われるが当水試の漁具構造から枝細別の釣獲比率を調べたのが表2及び図4である。

マグロ類の場合は深い枝細程高率を示し、カジキ類はその逆で浅い枝細で多獲されている。このようなことは、どの漁場でも大体同じような釣獲傾向を示している。なおマグロ類の漁獲について5本付と4本付の漁具構成で比較試験した結果は表3のとおりである



5本付の釣針が設置されるのは大体3ヶ層に区別される。即ち上層は1、5番の枝細で中間が2、4番の枝細、そして3番(中央)の枝細が一番深い位置に設置されている。また4本付の場合は、1、4番の枝細が浅く2、3番の枝細が幾分深に設置されていると想定されるが、その両者の枝細設置層と釣獲率は、やはり深い枝細程高率を示しその差は顕著である。

表3 5本付と4本付の漁獲状況

5本付			
事項 \ 枝別	1、5番	2、4番	3番
使用釣針数	5,654本	5,654本	2,827本
漁獲尾数	127尾	228尾	152尾
釣獲率	2.24%	4.03%	5.37%

4本付		
事項 \ 枝別	1、4番	2、3番
使用釣針数	1,012本	1,012本
漁獲尾数	40尾	51尾
釣獲率	3.95%	5.04%

表4-1 漁具の設置層を深くした場合の漁業と従来の漁況

漁場	使用漁具数	使用釣針数	マグロ類		カジキ類		サメ類		計		備考
			尾数	釣獲率	尾数	釣獲率	尾数	釣獲率	尾数	釣獲率	
セレベス海	2910鉢	14550本	904	6.21	20	0.13	97	0.66	1,021	7.01	浮網を45mに延長した。
マイクロネシア海域	2750	13750	207	1.50	9	0.06	136	0.99	352	2.56	全上